

## 2、日本と外国の印刷研究

日本大学 三浦澄雄

日本と外国でどのようなテーマの研究が誰によって行なわれているかを日本印刷学会の発表会、TAGA Proceeding, IARIGAIのレポート集を資料にして調べた。TAGA (Technical Association of the Graphic Arts) はアメリカの印刷学会であるが世界の多くの国に会員がいる。日本にも会員がおり発表会に参加している。IARIGAI (International Association of Research Institute for the Graphic Arts Industries) は世界各国の印刷研究機関が集まった協会である。現在でもIARIGAIの名称は使っているが、International Association of Organisations for the Printing, Information, and Communication Industriesと傍記されている。参考にした資料は印刷学会'02、'03、'04、TAGA'00、'01、'02、'03、IARIGAI'99、'00、'03である。発表されたテーマを印刷に直接関係あるテーマ、印刷に間接に関係あるテーマ、技術の新開発あるいは基礎的研究、印刷技術概論の四つに分類して各学会毎に件数をみると次のとおりである。

印刷学会	7	16	10	0
TAGA	26	14	1	3
IARIGAI	10	7	1	8

日本の場合は印刷に直接関係するテーマの割合(21%)が少なく、間接的に関係するテーマ(48%)、新開発のテーマ(30%)が多い。TAGAは印刷に直接関係するテーマ(59%)が多い。IARIGAIは伝統的に間接的テーマ、基礎テーマが多かったが、最近はTAGAとも共同発表するようになり直接的テーマ(38%)が多くなっている。発表者の所属先を印刷企業、印刷関連企業、大学、公的研究機関の三つに分類して各研究テーマについて印刷学会とTAGAの所属先をみると次のとおりである。なおIARIGAIは研究所、大学などの団体が会員であるので省略してある。

印刷学会	13	2	20
TAGA	6	16	19

二学会の相違は印刷学会の場合、印刷企業が多く、TAGAの場合印刷関連企業が多い。大学、研究機関は双方とも数が多いが日本の場合、大学の重複がある。日本で印刷企業が多いのは大日本印刷、凸版印刷などの大手企業の発表が多いためである。印刷学会の大学などの延べ数は20であるが実数は7大学・機関である。一方、TAGAは実数15大学・機関である。日本では一大学当たりの発表件数が多いことを意味している。TAGAの発表で大学数が多いのはアメリカの大学だけでなくアメリカ国外の大学が参加していることがある。